



# 目次

1. 彩都の丘学園における防災教育の取組について	02
2. 防災学習事例	
①彩都の丘学園における学習事例	
防災授業参観(1～2年生)	03
防災授業参観(3～4年生)	05
防災授業参観(5～7年生)	07
防災授業参観(8～9年生)	09
防災体験プログラム(全学年)	11
②参考学習事例	
絵本・紙芝居読み聞かせ(低学年向け)	17
紙食器づくり(低学年向け)	19
持ち出し品なあに?クイズ(中学年向け)	21
なまずの学校(中学年向け)	23
ジャッキアップゲーム(高学年向け)	25
毛布で担架タイムトライアル(高学年向け)	27
応急手当ワークショップ(中学生向け)	29
家具転倒防止ワークショップ(中学生向け)	31
3. 防災訓練事例	
①避難訓練(火災)	33
②防災訓練(地震に伴う引き渡し)	35
③地域防災訓練(講演会&備蓄倉庫見学/炊き出し)	37
④避難訓練(地震)	40
4. 防災教育年間カリキュラム	41
5. 防災・安全教育全体計画	43
参考資料	44

# 1

## 彩都の丘学園における 防災教育の取組について

箕面市では、平成23年3月末に府内33市で初めて、全ての市立小・中学校・幼稚園の耐震化率100%を達成し、地震発生時における児童・生徒の安全を確保するとともに、地域住民の避難場所として確実に役割を果たせる学校施設の整備に努めています。また、東日本大震災を教訓に、行政と市民一人ひとりが力を合わせて災害に対処することで、「災害に強い箕面」を実現する「防災改革」を掲げ、防災体制を全面的に見直す取組を進めています。

一方、災害時に身を守るためには、子どもから防災についての知識を身につけ、的確に対応できる力をはぐくむことが大切であり、家庭や地域社会と学校園所が連携して防災教育に取り組むことが重要です。

そこで、学校を中心とした防災教育の充実を図るため、市・消防本部及び教育委員会の連携のもと、本学園において防災教育プログラムの開発に取り組んでまいりました。

まち開きから間もない彩都地区では、住民どうしのつながりを深め、安全で安心なまちづくりを進めていくことも重要な課題です。本学園の取組においては、防災の取組を通して地域コミュニティの醸成を図る観点から、防災授業参観や保護者への引渡し訓練、地域住民や保護者が参加する備蓄倉庫の確認・炊き出し訓練などを実施してきました。

この防災教育プログラムでは、本学園における取組事例とともに、NPO法人プラス・アーツが開発した防災教育に関する事例を紹介し、他の学校園所でもメニュー選択方式で活用してもらいやすいようにまとめました。また、小中一貫教育の観点から防災教育をとらえ、知識習得型の活動や参加体験型の活動を異年齢で取り組めたり、保護者・地域住民と連携した防災教育を進めたりできる内容としています。

本学園における防災教育の充実に向けた取組は始まったばかりであり、まだまだ工夫改善を加えていく必要があると考えています。ぜひ本冊子をご覧いただき、ご意見、ご指導を賜るとともに、これを機に市内各校園所を中心とした防災教育の取組がさらに充実発展し、箕面市全体の防災力の向上につながることをできれば幸いです。

彩 都 の 丘 学 園  
校 長 樋 口 弘 造

# 2

## 防災学習事例①彩都の丘学園における学習事例 防災授業参観(1～2年生)

### ねらい

- ① 震災を体験した子どもの詩や作文を紹介し、災害について考える。
- ② 地震の映像を見たうえで心に残ったことなどを絵に描いて交流することから、日頃からの備えの重要性について学ぶ。

- ◎日程：平成23年6月11日(土)
- ◎時間：13時50分～14時35分(45分)
- ◎場所：教室
- ◎参加者：31人(1～2年生)
- ◎スタッフ：3人(教員)
- ◎協力：箕面市消防本部予防課

### 実施内容

- 震災を体験した子どもの書いた詩や作文を聞いて、感想を発表する。
- 震災のニュースや映像を見て、印象に残った場面を絵に表現する。
- 地震が起きた時の対応について消防の方から話を聞く。

### タイムスケジュール

- 導入Ⅰ (10分) 震災を体験した子どもの書いた詩や作文の紹介・質問  
作品例：「ぼくは、かなしい」「やけたいえ」  
質問例：①地震の時、どんなことがありましたか？  
②地震のどんなことが書かれていましたか？  
③詩や作文を書いた子どもはどのような気持ちでしたか？  
子ども自身の地震体験の発表
- 導入Ⅱ (10分) 東日本大震災のニュース、阪神淡路大震災等の映像の紹介  
映像例：揺れている様子、焼け野原、物を探している子ども、避難所、建物や道路等の崩壊  
地震発生時の様子について分かったことの発表
- 展開 (15分) 心に残った(怖いと思った)ことをテーマとした児童生徒による絵の制作  
子どもが描いた絵の紹介  
質問例：①何を描きましたか？②どうしてこの絵を描きましたか？
- まとめ (10分) 消防本部による地震発生時における対応のお話  
復興の詩の紹介



ニュース映像を紹介している様子



子どもたちが絵を描いている様子



子どもたちが絵を紹介している様子

防災授業参観(1～2年生)活用資料等

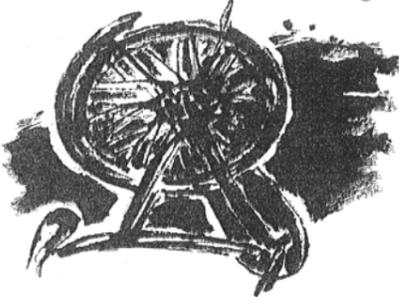
ぼくは、かなしい ぼくは、かなしい (二軒)

よ中の六じごろ、  
ぼくは、ぐっすりとねていた。  
とつぜん、  
ゴロゴロと大きなおとをたてて、  
じしんがきた。  
ぼくは、ころころところがついて、  
いっしょんで、  
タナがぜんぶたおれてしまった。  
そして、ぼくのすんでいるビルが、  
三十五どもかたむいてしまった。

わたしたしよっきの上<sup>うへ</sup>に  
ふとんをかぶせました。  
くつをはいて、  
その上<sup>うへ</sup>をあるきました。  
かいだんをつかつて、おりましたが、  
一かいのところがかくすれてしまって、  
ふさがってしまいました。  
お兄<sup>あに</sup>ちゃんが、  
一人<sup>ひとり</sup>だけとおれるぐらいの  
あなをほってくれました。  
それから、  
徳島<sup>とくしま</sup>のおじいちゃんの家<sup>いえ</sup>まできました。

やっとおちつきました。  
でも、  
ぼくたちのすんでいたビルは、  
かいたいしてしまつて、  
なくなつてしまいました。  
家の<sup>いへ</sup>どうぐも  
みんななくなつてしまいました。  
だから、ぼくは、  
もう神戸<sup>ごんべ</sup>にはかえれません。  
かえる家<sup>いえ</sup>がありません。  
ぼくは、かなしいです。  
でも、いきていてよかったです。

※徳島県



「ぼくは、かなしい」

やけたいえ むらとめくみ (二軒)

わたしは  
やけたいえにきてなきました  
なきおわつて、  
いまのいえにかえりました  
わたしはいまのいえで  
またなきました  
なきおわつて  
あしたになつて  
またなきました  
そしてなきおわつて

またやけたいえにきました  
そしてまたなきました



「やけたいえ」

# 2

## 防災学習事例①彩都の丘学園における学習事例 防災授業参観(3～4年生)

### ねらい

- ①災害時の生活について考えて、何が必要かを知る。
- ②持ち出し品を準備しておく必要性を学ぶ。

- ◎日程：平成23年6月11日(土)
- ◎時間：13時50分～14時35分(45分)
- ◎場所：教室
- ◎参加者：15人(3～4年生)
- ◎スタッフ：2人(教員)
- ◎協力：箕面市消防本部予防課

### 実施内容

- 震災時における持ち出し品10個の中から必要と思うものを班毎に3つ選ぶ。  
また、その物品を選んだ理由を発表し、それぞれの考え方を交流する。
- 1日の行動をタイムスケジュールにして、災害時に起こる不都合を想定しながら、必要なもの、使用するものを書き出して発表する。

### タイムスケジュール

- 導入Ⅰ 災害時において出来なくなることの発表  
例：「水、食べ物がない」「電気が止まる」「ガスが止まる」「電話など連絡が取れない」
- 導入Ⅱ 避難時用の持ち出し品10個の紹介  
※1グループ3人で話し合い、持ち出し品を挙げる。
- 展開Ⅰ 持ち出し品10個から必要な物3つの検討  
※持ち出し品名を書いたカードを提示し、グループで理由とともに選ぶ。
- 展開Ⅱ 必要な持ち出し品3つの発表  
※持ち出し品名を書いたカードを掲示し、グループ毎に3位から順に発表する。
- まとめ 消防本部による実際に必要なものの紹介  
※家族で防災について話し合う大切さを伝える。



持ち出し品を挙げている様子



必要な物3つを発表している様子



消防の方のお話の様子

防災授業参観(3～4年生)活用資料等



持ち出し品 10 個

3・4年生 防災学習「地震災害時のくらしについて考えよう」ワークシート  
 ( )はん みんなの名前( )

★もし地震がおきたとき、あなたは何を3つ持ち出し品に選びますか？

えらんだものと、えらんだわけを考えて書きましょう。

1 位	( ) えらんだわけは、
2 位	( ) えらんだわけは、
3 位	( ) えらんだわけは、

★今日の学習をふりかかって・・・

授業で子どもたちに配布したワークシート

# 2

## 防災学習事例①彩都の丘学園における学習事例 防災授業参観(5～7年生)

### ねらい

- ①災害時に、自分の身を守るために、どのように行動し判断するかについて話し合いを通じて学ぶ。
- ②当事者(被災者)意識で考える必要性を学ぶ。

- ◎日程：平成23年6月11日(土)
- ◎時間：13時50分～14時35分(45分)
- ◎場所：教室
- ◎参加者：23人(5～7年生)
- ◎スタッフ：4人(教員)
- ◎協力：箕面市消防本部予防課

### 実施内容

災害カードゲーム「クロスロード」を利用し、災害時における問題について、2択形式にしたカード(イエスカード、ノーカード)を用いながら、ディスカッションする。緊急性の高い具体的な問題を立場の違いなどを明らかにして、その問題を主体的に考える。

### タイムスケジュール

- |              |  |
|--------------|--|
| 導入<br>(10分)  | 授業の目的と流れの説明<br>※異年齢同士によるグループを作り、発表方法を確認する。<br>※注意点として、発表者が固定しないよう指導する。   |
| 展開<br>(30分)  | 問題に対するディスカッションと発表<br>①問題提示後、自分の“イエス、ノー”の立場とその理由をワークシートに記入する。<br>②ワークシートを元に、時間を決めてグループ内で話し合う。<br>③グループ内で話し合った結果を、各グループの代表が発表する。<br>※はじめに、教員から話し合いの進め方についてデモンストレーションを行う。<br>※消防の方と教員が、共感した発表者の話には座布団ポイントをつける。<br>※一人ひとりが話し合いに積極的に参加しているか、他の意見を理解しているか確認する。 |
| まとめ<br>(10分) | ワークシートの記入<br>※話し合った結果や新たな発見、気づきをワークシートに記入する。   |



クロスロード実施の様子



クロスロード実施の様子



クロスロード実施の様子

防災授業参観(5～7年生)活用資料等

<p>あなたは、“市民”です。</p> <p>■ 大きな地震のため、避難所(小学校体育館)に避難しなければならない。しかし、家族同然の飼犬[もも](ゴールデンレトリバー、メス3さい)がいる。</p> <p>いっしょに避難所に連れて行く?行かない?</p>	<p>あなたは、“海辺の集落の自主防災組織リーダー”です。</p> <p>■ 10分前の地震で、津波警報発令。ラジオは40分前で第一波が来襲(おそってくる)する危険と報じている。みなで声をかけ合い、10分あまりで高台への避難を完了した。が、一家族4人だけ姿が見あたらない。</p> <p>探しにもどる?もどらない?</p>	<p>あなたは、“ひさい者”です。</p> <p>■ 地震で自宅は半分こわれている状態、家族そろって避難所へ。ただ日ごろの備えが幸いして、非常持ち出しぶくろには水も食料も3日分はある。一方、避難所には水も食料も持たない家族多数。</p> <p>その前で非常持ち出しぶくろをあける?あけない?</p>
---	---	---

提示した問題の内容

あなたならどうする?

年 組 ( )

★災害が起こったとき、自分ならどのように判断するか考えましょう。また、その理由も書きましょう。

①

YES NO	理由
-----------	----

②

YES NO	理由
-----------	----

③

YES NO	理由
-----------	----

★今日の活動をふりかえって、気がついたことや感じたことを書きましょう。

.....

.....

.....

.....

自分の意見をまとめてもらうために配布した資料

# 2

## 防災学習事例①彩都の丘学園における学習事例 防災授業参観(8～9年生)

### ねらい

- ①災害時において最低限の物しかない状況で、自分のスペース(寝る場所)を確保する知恵を身につける。
- ②避難所で寝る場所の確保することの困難さやプライバシーに配慮する必要性を学ぶ。

- ◎日程：平成23年6月11日(土)
- ◎時間：13時50分～14時35分(45分)
- ◎場所：体育館
- ◎参加者：5人(8～9年生)
- ◎スタッフ：5人(教員)
- ◎協力：箕面市市民安全政策課

### 実施内容

体育館を避難所に見立てて、新聞紙や段ボール等を利用して寝床づくりを行う。また、プライバシーの保護や寝る場所に対する人の優先順位も一緒に考える。

### タイムスケジュール

- 導入Ⅰ (5分) 避難所に関する映像の紹介  
※体育館が避難所として利用されているDVDを使用する。  
※赤ちゃんやお年寄り等の様々な立場における状況をイメージする。
- 導入Ⅱ (5分) 避難所に関する読み物の紹介  
※映像で分からないトラブルや、快適さの追求は極めて困難なことを伝える。
- 展開 (30分) 寝床づくり  
※3㎡の面積に6人程度(3家族の想定)が居住することを想定して制作する。
- まとめ (10分) 感想文、片付け  
※避難所の苦勞が感想文に反映されているか確認する。



寝床づくりの様子



寝床づくりの様子



寝床体験の様子

## 防災授業参観(8～9年生)活用資料等

### 準備物

- 映像「避難所の様子」: 1本
- 避難所に関する資料: 必要数
- ハサミ: 必要数
- カッターナイフ: 必要数
- ダンボール(1人当たり1畳程度の大きさのものを4枚): 必要数
- 新聞紙: 必要数
- エアークッション(1人当たり1畳程度の大きさのものを1枚): 必要数
- ガムテープ: 必要数
- PPロープ: 必要数
- 布団もしくは毛布: 必要数

### 事前準備

#### 前日までの準備

- ダンボールや新聞紙等の材料を、参加人数に合わせて準備する。

#### 当日の準備

- 材料をスムーズに配布できるように整理しておく。

# 2

## 防災学習事例①彩都の丘学園における学習事例 防災体験プログラム(全学年)

### ねらい

- 楽しみながら学べる体験型の防災プログラムを実施し、防災に関する様々な知恵や技を学ぶ。
- 上級生が防災体験プログラムのスタッフを担い、上級生から下級生へ防災の知恵や技を伝える場を作る。
- 保護者や地域住民にも参加を呼び掛けて、地域防災力の向上へと努める。

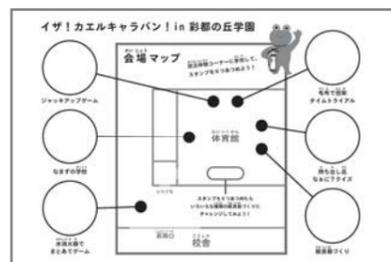
- ◎日程：平成24年1月16日(月)
- ◎時間：14時10分～15時30分(80分)
- ◎場所：体育館、スクールアベニュー
- ◎参加者：約90人(1～9年生、保護者)
- ◎スタッフ：22人(6～9年生)、17人(教職員)
- ◎協力：箕面市消防本部予防課・市民安全政策課・学校教育課  
プラス・アーツ

### 実施内容

- 阪神・淡路大震災の被災者167人へのヒアリングやアンケートを元に、NPO法人プラス・アーツと美術家・藤浩志が開発した防災体験プログラムを6つ選んで実施する。
- 子どもたちが積極的に楽しみながら防災体験プログラムに参加する演出として、スタンプラリーを導入する。各プログラムを体験するとスタンプがもらえ、3つ以上のスタンプを集めると、表彰状を授与する。  
※基本的に、全員が表彰状をもらえるようスタンプ数を設定する。

### タイムスケジュール

- 導入/展開 防災体験プログラムの実施  
(70分) ※1つのプログラムに参加者が集中しないよう、予め最初の参加プログラムを振り分ける。
- まとめ 表彰式と振り返り  
(10分) ※表彰式では学園委員会代表者に受け渡し、その他の子どもたちには後日渡す。



スタンプラリーのカード



表彰状

## 実施プログラム



水消火器でのあてゲーム

火事への対応や、消火器の使い方を学ぶゲーム。



ジャッキアップゲーム

ジャッキの役割や保管場所を学ぶゲーム。



毛布で担架タイムトライアル

ケガ人を運ぶ際の防災の知恵や技を、身の回りの物を使って学ぶゲーム。



持ち出し品なあに？クイズ

非常時に役立つ持ち出し品 12 品目を暗記するクイズ。



なまずの学校

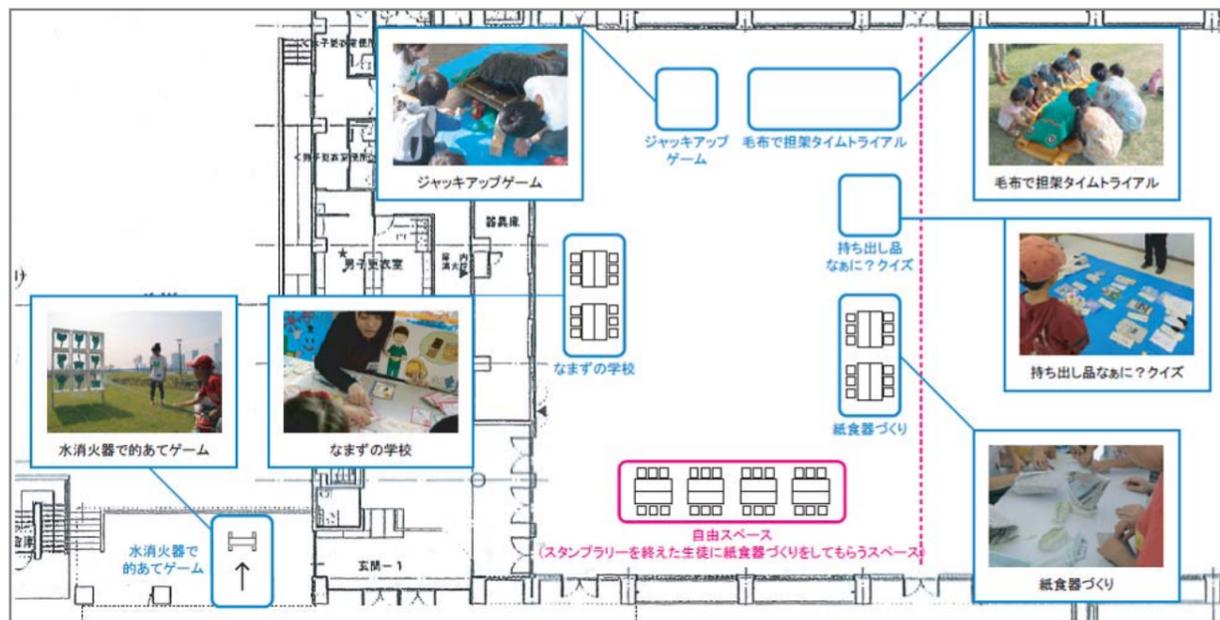
地震が発生した際に起こる様々なトラブルの解決方法を考えるゲーム。



紙食器づくり

災害時、食器が割れたり、水を節約したりする時に役立つ紙食器づくりを学ぶワークショップ。

## 会場レイアウト



## 実施の様子

### 水消火器でのあてゲーム



2種類の的(カエルの的・火を模したおきあがりこぼしの的)を使って、消火器の使い方を体験しながら覚えた。水消火器は、箕面市消防本部からレンタルした。

### ジャッキアップゲーム



ジャッキの役割や保管場所(車のトランクや防災倉庫)を知ってもらい、ジャッキを実際に使用した。また、瓦礫に埋もれた人を引っ張る際の注意点も学習した。

### 毛布で担架タイムトライアル



ケガ人の運び方を学習するとともに、身の回りものを使った担架の作り方を体験した。

### 持ち出し品なあに？クイズ



災害時に備えて家庭で用意して欲しい持ち出し品 12 品目をクイズ形式で覚えた。また、災害時における各品の使い方についても学習した。

### なまずの学校



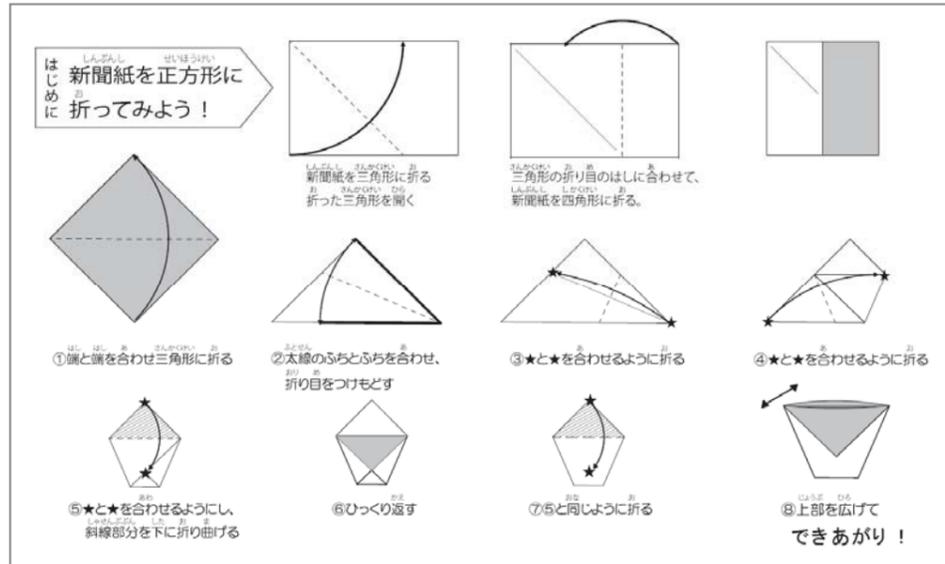
災害時における様々なトラブル(問題)を紙芝居形式で出題し、手持ちのアイテムカードで解決する「なまずの学校」を体験した。

### 紙食器づくり



災害時に食器が割れたり、水が使えなくなったりすることを学習し、いらなくなったチラシを用いた紙食器(コップ型)づくりを体験した。

実施プログラム活用資料等



紙食器の折り方

**カエルキャラバン!**  
MESSAGE FROM 1955 AT KOBE

**もちだしひんリスト** いえにあるかどうかチェックしてみよう!

もちだしひん	つかいゆた	
みず	ひとりいちにち3リットルはひつようといわれていますが、もちはこぶことをかんがえてひとりいちにち1.5リットルよういしょう!	<input type="checkbox"/>
ひじょうしょく	みっかぶんをよういしているとおんしん、おうえんのだべものは、じしんがおこってすぐにはくばられないことがあるよ。	<input type="checkbox"/>
ほりぶくろ	てぶくろ、しよっきやあまぐのかわりになったり、ものをいれたりいるんなことにつかえてべんり!	<input type="checkbox"/>
しんぶんし	おりがみのおようにおるとしよっきに、まるめるとほねがおれたときのそえぎになるよ。きむいときはからだにまくとあたたかいよ。	<input type="checkbox"/>
ガム・テープ	でんこんメモをはったり、われたガラスのはへんをかたづけるときにべんり!	<input type="checkbox"/>
ラップ	しよっきにかぶせるとあらいみずのせつやくになるし、きむいときはしんぶんしといっしょにからだにまくとあたたかいよ。けがをしたときにはほうたひのかわりとしてもちかえるよ。	<input type="checkbox"/>
あつてのぐんて	ぶあついくんてをはめていると、あつてもをきわたり、ガラスのはへんをかたづけるときもへいき!	<input type="checkbox"/>
タオル	よこれをふいたり、けがをしたときのほうたい、マスクやしたぎのかわりにもつかえるよ。	<input type="checkbox"/>
レインコート	あまぐとしてつかえるのももちろん、きているとあたたかいし、いえなどがたおれたときにでるほこりよけにもなるよ。	<input type="checkbox"/>
かいちゅうでんとう	ひとり1コはよういしょう! こうかんようのでんちもわずれず!	<input type="checkbox"/>
けいたいラジオ	でんきがストップすると、でんちでうごくラジオはたいせつ! いるんなじょうほうをあつめられるよ。	<input type="checkbox"/>
きゅうきゅうセット	いつもんでいるくすりがあるひとは、いっしょにいておこう。	<input type="checkbox"/>

制作：NPO法人プラス・アーツ

持ち出し品リスト

## 実施の仕組み・体制

上級生(6~9年生)から下級生(1~5年生)へ防災の知恵や技を伝える場づくりに取り組んだ。

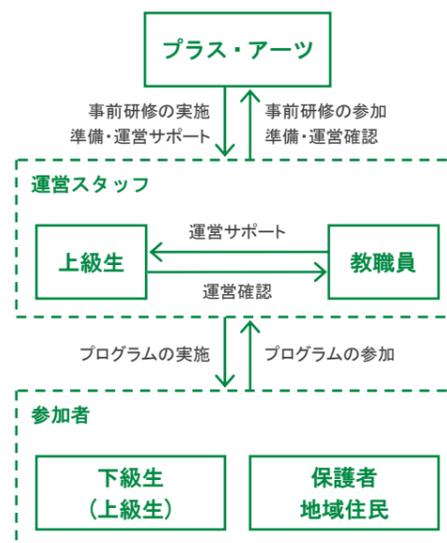
防災体験プログラムの実施目的や運営方法、ポイントをレクチャーする事前研修会を上級生と教職員に向けてプラス・アーツが行い、当日の運営スタッフとして上級生が、そのサポート役として教職員が担った。

また、上級生も、運営だけではなく、各プログラムに参加できるようにローテーション(前半組・後半組)を組み、交互に体験した。

[事前研修会]

日時：平成24年1月10日(火)11時~12時

場所：多目的室



実施の仕組み



事前研修会の様子



事前研修会の様子



事前研修会の様子

全 運 営 管 理 協 力  校 長 ・ 教 頭 ・ 防 災 本 部	水消火器でのあてゲーム	前半：4人(6~9年生)+3人(教職員) 後半：4人(6~9年生)+3人(教職員)
	ジャッキアップゲーム	前半：2人(6~7年生)+1人(教職員) 後半：1人(8年生)+2人(教職員)
	毛布で担架タイムトライアル	前半：2人(6~7年生)+1人(教職員) 後半：1人(8年生)+1人(教職員)
	持ち出し品なあに?クイズ	前半：1人(6年生)+1人(教職員) 後半：1人(7年生)+1人(教職員)
	なまずの学校	前半：2人(6~7年生)+1人(教職員) 後半：1人(9年生)+1人(教職員)
	紙食器づくり	前半：2人(6~7年生)+1人(教職員) 後半：1人(9年生)+1人(教職員)

実施体制

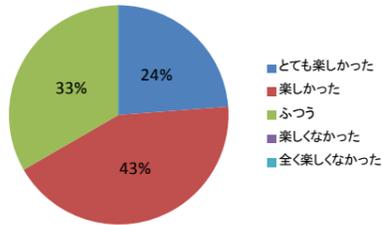
## 上級生(6～9年生)に対するアンケート結果

スタッフとして1月16日のイベントを運営した上級生に対して行ったアンケートの集計結果です。

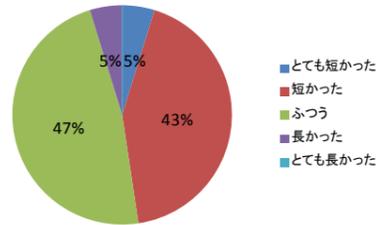
[アンケート回答者の属性]

○学年(6年生:7名/7年生:8名/8年生:2名/9年生:4名)

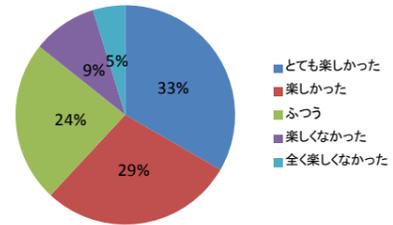
○性別(男:12名/女:9名)



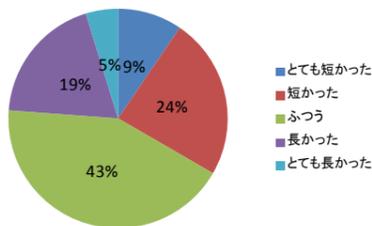
イベントの楽しさ



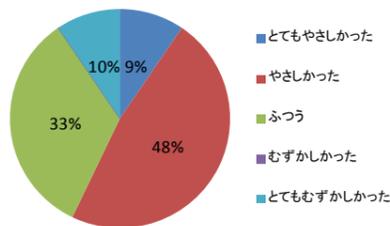
イベント時間の長さ



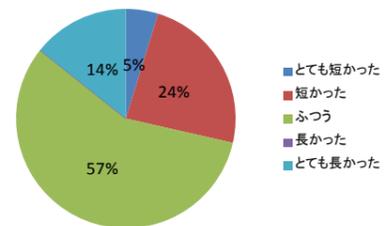
スタッフとして手伝うことの楽しさ



スタッフとして手伝った時間の長さ



スタッフとして手伝った内容の難易



事前研修の時間の長さ

## 上級生(6～9年生)の感想・意見抜粋

- お手伝いする時間が少なく感じた。もっといろいろな人に問題を出したかった。
- 初めてこんなお手伝いをして、すごくおもしろかった。
- 水消火器でのゲームのお手伝いは同じことを何回も繰り返していたので、少しだけ暇だった。他のお手伝いもやりたかった。
- ジャッキアップゲームを説明するのは、意外と簡単にでき、みんなに分かってもらったので良かった。
- 楽しかった。
- 1年生に教えるのは難しかった。3年生からが丁度教えるのに良いと思う。
- 防災体験プログラムを行う時間が短かった。
- 時間がなく少ししか防災体験プログラムに参加出来なかったけど、ゲームで遊ぶことで楽しく、そして、実際に災害が起こった時にどうすれば良いか分かりやすく学べた。

# 2

## 防災学習事例②参考学習事例(低学年向け) 絵本・紙芝居読み聞かせ

阪神・淡路大震災を始めとして、災害や防災、水害をテーマに作られた絵本や紙芝居を、開催場所や企画内容に応じて選び、鑑賞する。

- ◎目安時間：10分/作品
- ◎実施場所：屋内・屋外両方可
- ◎参加人数：5～3人/回
- ◎必要スタッフ数：2人～

### 実施ポイント

- 1 最近の傾向として増加傾向にある未就学の子どもたちに震災の教訓を伝えるのに効果的である。
- 2 絵本や紙芝居に注目するために、声色の変化やリズムなどに気を配り演出することも大切である。



### 必要資機材(目安)

資機材名	数	備考
<input type="checkbox"/> 紙芝居「津波だ！いなむらの火をけすな！」 <b>A</b>	1冊	ダウンロード可
<input type="checkbox"/> 紙芝居「おおあめとぼくのゆめ」 <b>B</b>	1冊	プラス・アーツよりレンタル可
<input type="checkbox"/> 絵本「命ある限り」 <b>C</b>	1冊	プラス・アーツよりレンタル可
<input type="checkbox"/> 長机	2～4台	必要時のみ
<input type="checkbox"/> 椅子	5～8脚	必要時のみ
<input type="checkbox"/>		

**A**

**B**

**C**

### 前日までの準備

- 実施する前にどういった絵本や紙芝居を使用するか、テーマを決めていくつかの数材を選んでおく。
- 本の内容を事前に把握しておき、十分に練習しておく。

### 当日の準備

- 会場のセッティング(机や椅子のレイアウト)を行う。
- スタッフ同士でストーリーを確認し合い、一度練習しておく。

### 全体の流れ

- ①テーマに合わせて震災の資料や写真を見せて、当時どのようなことが起こったのかを教える。
- ②震災や災害のことが描かれた絵本(又は紙芝居)を読み聞かせる。
- ③最後に各自感じたことを発表する。

地域の消防局や防災センターでは防災に関する絵本、紙芝居、ビデオ等を保有している場合があります。必要な場合は、相談してみてもよいでしょう。



### 津波だ！いなむらの火をけすな

江戸時代の末期、地震による大津波が紀州和歌山を襲った。主人公の濱口梧陵は稲むらの火をつけて村人を高台に導き多くの命を救う。その後、私財を費やし、村人と協力して作った防波堤は現在も町を守り、防災への備えを忘れないシンボルとして存在している。



### おおあめとぼくのゆめ

突発的で局地的な豪雨(ゲリラ豪雨)による水害から身を守るために、水害に関する知識や正しい避難方法を伝える紙芝居。間違い箇所が隠れており、紙芝居を聞いてもらう子どもたちに、どこが間違っているか探してもらう仕組みになっている。探そうとすることでより集中力が増し、教育的効果を高めることができる。



### 命ある限り

阪神・淡路大震災で最愛の夫を亡くした妻(安藤衣子さん)が、震災後9年間、毎年1月17日が来るたびに書き綴った夫への思い、家族への思い、そして震災に対する思いを1冊にまとめた絵本。作者の思いの変化が青、赤、黄と背景の色の变化で表現されている。



### 実施にあたって

絵本や紙芝居などの作品は実体験に基づくものが多く、震災をはじめ、災害教訓の伝承に適している。手軽で効果の高いプログラムである。また、単独で実施するだけでなく、他のプログラムとも組み合わせで実施しやすいプログラムである。



# 2

## 防災学習事例②参考学習事例(低学年向け) 紙食器づくり

災害時に食器棚が転倒し食器が割れたり、水道が止まって食器が洗えなくなる場合などが発生した際、新聞紙を利用して簡易な食器を作れることを学ぶ。

- ◎目安時間：10分/回
- ◎実施場所：屋内・屋外両方可
- ◎参加人数：数人/回
- ◎必要スタッフ数：2人～

### 実施ポイント

- 1 地震の揺れで食器が割れてしまった場合に新聞紙など身近にあるモノを使って簡易な食器を作る知恵を教える。
- 2 避難生活では水が貴重になり、食器を少量の水で洗う工夫や、ラップにかけて食器を汚さない工夫が行われたことを伝える。



### 必要資機材(目安)

資機材名	数	備考
<input type="checkbox"/> 新聞紙 <b>A</b>	必要数	いらなくなったチラシ等でも可
<input type="checkbox"/> 食品包装用ラップ	1本	30cm程度の幅の広いタイプ
<input type="checkbox"/> ビニール袋	必要数	小皿が入る程度の大きさ
<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ	1ケース	新聞紙で手が汚れた時に使用
<input type="checkbox"/> 紙食器の折り方配布シート <b>B</b>	必要数	A4サイズ程度 問い合わせはプラス・アーツまで。
<input type="checkbox"/> 作り方パネル <b>C</b>	必要数	折り方をA3サイズ程度に引き延ばしたり、実際に小さい紙で手順を説明したパネルを、テーブルに置いておくと分かりやすい。
<input type="checkbox"/>		



**A**



**B**



**C**

### 前日までの準備

- 新聞紙を入手しておく。(規模にもよりますが、1ヶ月程度あれば十分)
- マニュアルを見て、紙食器の折り方を事前に覚えておく。
- マニュアルに載っている以外の折り方を調べておくとさらによい。

### 当日の準備

- 作り方パネルを机に複数置いておく
- 新聞紙を使いやすい大きさに切っておく。
- 見本を複数作って置いておく。
- いろんな折り方を見せたり、教えたりする場合は、それぞれの折り方の見本を準備しておく。



### 震災時の状況説明

写真などの資料を見せながら、阪神・淡路大震災を事例にして、ライフラインが止まった時の避難生活の困難な状況について説明する。



### 震災時の食器・水問題の説明

震災時、食器が割れてしまったり、水で洗えなくなったりした場合に、新聞紙やラップ、ポリ袋などで作った簡易な食器がとても役に立った事を教える。



### 紙食器の作り方説明

新聞紙を使った食器の作り方、ラップやポリ袋などを食器にかぶせる活用方法などを実際に作ってみせながら教える。



### 紙食器を使用

パーベキューなどアウトドアで使ったり、普段の生活でお菓子を入れて使うなど、日常生活での活用方法を説明する。開催地の実施プログラムに「炊き出し」があれば、実際に自分で作った紙食器で食べてもらうのも貴重な体験になる。

熱い汁物などを入れるときは、2個重ねると持つのに熱くないよ!



### 他の材料での作り方

新聞紙だけでなく、他にどんなものが食器代わりに使えるかを考える。  
(例) 缶詰の空き缶を活用する、葉っぱをお皿代わりにする、木の枝で箸をつくるなど

# 2

## 防災学習事例②参考学習事例(中学年向け) 持ち出し品なあに？クイズ

非常時持ち出し品 12 品目を 1 分間で暗記し、いくつ覚えたかを確かめるクイズ。1 つ 1 つの持ち出し品の災害時の役割を学ぶ。

- ◎目安時間：10 分/回
- ◎実施場所：屋内・屋外両方可
- ◎参加人数：1 人~/回
- ◎必要スタッフ数：2 人

### 実施ポイント

- 1 家庭に備えておくべき非常時持ち出し品の中から特に重要な 12 品目を抜粋し覚える。品目だけでなく備蓄しておく数量やその使い方も合わせて教える。
- 2 一つの品目で様々な用途に使える多機能防災グッズの重要性やコンパクトなグッズを選ぶことなどを伝える。



### 必要資機材(目安)

資機材名	数	備考
<input type="checkbox"/> 非常時持ち出し品(12 品目程度) <b>A</b>	1 式	品目は独自に選んでも構わない 【例】ポリ袋、ラップ、新聞紙、懐中電灯、携帯ラジオ、ガムテープ、 レインコート、タオル、水、救急セット、非常食、軍手
<input type="checkbox"/> 持ち出し品を並べる布やシート	1 枚	1 畳程度の大きさ
<input type="checkbox"/> 持ち出し品を隠す布やシート	1 枚	1 畳程度の大きさ
<input type="checkbox"/> 品目のプレート <b>B</b>	12 枚	様式自由(手作りで構いません)
<input type="checkbox"/> 非常持ち出し品用解説パネル <b>C</b>	12 枚	A3 ラミネート加工 プラス・アーツからレンタル可
<input type="checkbox"/> ストップウォッチ	1 個	1 分間が計れるもの、電池もセットで用意
<input type="checkbox"/> チェックシート	必要数	スタッフチェック用(正解が記載されているもの)
<input type="checkbox"/> 解答用紙	必要数	様式自由
<input type="checkbox"/> 筆記用具	必要数	解答用紙に記入してもらう場合のみ必要
<input type="checkbox"/>		



### 前日までの準備

- 持ち出し品を12品目程度用意する。(必ずしも12品目でなくても構わない)
- 持ち出し品を隠す布やシートは、イラストや文字で飾り付けをするなど工夫をすることで楽しい演出ができる。

### 当日の準備

- 持ち出し品をシートの上に並べて置き、ひらがなで品名を書いた名称プレートを品物の下側に置く。
- 布を上からかぶせて、持ち出し品を隠しておく。
- スタッフ同士で、ワークショップの流れを確認し合い一度練習する。
- 持ち出し品の解説がスムーズにできるように解説パネルを事前に確認しておく。



### 持ち出し品の説明

(※最初は持ち出し品を布で隠しておく)

- ①参加者に「非常時持ち出し品」について質問する。
  - ・「非常時持ち出し品」とは何なのか、以前に学んだことがあるかを確認する。
  - ・実際に家に「非常時持ち出し品」を用意しているかどうか問いかけてみる。
- ②次に、暗記クイズのルールを説明する。

### 持ち出し品の暗記

布を開け1分間、持ち出し品を見せて覚えさせる。途中で経過時間を随時伝える。

1回の参加者が複数の場合は、みんなで覚えてみんなで答えてもらうやり方もあるよ!



### 覚えた品目を回答

1分が経過したら持ち出し品を布でもう一度隠して、覚えた品目を一つ一つ答えさせる。暗記が目的なので、ヒントを出しながら全て答えさせる。

答え方に関しては、①解答用紙に1人ずつ12品目を書き込ませる方法(※参加者が少人数の場合)と、②1人ずつ指名して答えを口頭で発表させる方法(※参加者が多数の場合)がある。



### 答え合わせ・解説

答え合わせが終わったら、それぞれの持ち出し品について解説を加える。イラスト入りの解説パネルなどを用いて、実際にどのように使用するか、どの程度の数量が必要なのかなどを具体的に説明するとより理解が深まる。



### 品目の選び方

ここで紹介している12品目は「人と防災未来センター」(兵庫)が推奨している31品目の中から、プラス・アーツが被災者への聞き取り調査の結果を加味して独自に選定したもの。実際には、各家庭で話し合い、独自の持ち出し品を決め、準備することが大切。3日間自力で、家族全員が生活できる食料を確保することも同様に重要であることを伝える。

# 2

## 防災学習事例②参考学習事例(中学生向け) なまずの学校

紙芝居形式で出題される震災で発生する様々なトラブルを手持ちのアイテムカードで解決する方法を考え、学ぶ。

- ◎目安時間：15分~/回
- ◎実施場所：屋内・屋外両方可
- ◎参加人数：1~6人/回
- ◎必要スタッフ数：2人

### 実施ポイント

- 1 出された問題を通して、震災時に発生する様子やトラブルを知る。
- 2 震災時の様々なトラブルにどのようなアイテムが有効なのかを学ぶ。
- 3 臨機応変にアイテムを駆使する防災の知恵を学ぶ。



### 必要資機材(目安)

資機材名	数	備考
<input type="checkbox"/> 「なまずの学校」ゲームセット <b>A</b>	1セット	実施規模によって、セット数は変更する。
紙芝居クイズ(解答例も含む) <b>B</b>	全14問	全部で58枚
なまずカード(アイテムカード) <b>C</b>	100枚	50種×2枚
カード置き場	6枚	
ナマズ紙幣	1式	10ナマズと50ナマズの2種類
ルールシート	1枚	
<input type="checkbox"/> レジャーシート(ブルーシート)	1枚	必要時のみ 6畳程度の大きさのもの
<input type="checkbox"/> 長机	必要数	必要時のみ
<input type="checkbox"/> 椅子	必要数	必要時のみ
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		

**A**

**B**

**C**

### 前日までの準備

- 説明書を読み、一回やってみるなどしてゲームの進め方を確認しておく。
- 全ての問題の内容を確認しておく。

### 当日の準備

- 紙芝居形式のクイズの順番を揃えておく。
- ナマーズ紙幣は、スムーズに配れるように、10ポイントと50ポイントの山に分けておく。
- アイテムカードをよくきっておく。
- 実施時間に応じて、問題を2~5問程度選んでおく。



### ゲームの説明

紙芝居形式で問題を出し、その災害時のトラブルに対して使えるアイテムを、各々が持っているアイテムカードの中から1枚選ばせる。

※問題は、個人で答える問題と参加者全員で協力して解決する「協力問題」がある。

「協力問題」は何問もあり、場も盛り上がるので1問はまけて出題すると効果的である。

※「入手のしやすさ」「使いやすさ」が高得点のポイントである事を伝える。



### カードの種類の説明

アイテムカードは色で分かれており、7種類あることを説明する。

(橙：コンビニ、緑：病院・薬局、紫：鉄工所、など)

それぞれ、そのアイテムを入手できる場所ごとにカードの色が分かれている。また、各アイテムカードには、カードを選ぶ際の「一口メモ」が書かれている。



### ゲーム実施

①アイテムカードを配る。各種2枚ずつ配る。(ガソリンスタンドカードのみ1枚)

②紙芝居形式で問題を読み上げる。

③もっとも相応しい答えだと思うアイテムカードを1枚選ばせる。

※相応しいものがなくても、必ず1枚のアイテムカードをださせる。

④答え合わせをし、正解者にはそれぞれ解答に応じたナマーズ紙幣を渡す。



### 答え合わせ

紙芝居を順にめくり、得点の低い解答から紹介する。なぜ、そのアイテムが有効なのかを順々に説明する。(※説明文は紙芝居の裏面に書かれている。)

解答にないカードが出された場合は、理由を聞き、内容によってはサービスポイント(50ポイント)を出すなどの対応をする。



### 結果発表

出題が全て終わり、合計得点が一番高かった人が「勝ち」となる。ゲームに登場したアイテムがどれも重要であることを伝えるとともに、普段から身につけておけるアイテム(大判ハンカチなど)を使った臨機応変な防災対策をしっかりと教える。また、各アイテムの入手先などを詳しく伝えると、それぞれのアイテムを備えてもらうためのきっかけにもなる。



# 2

## 防災学習事例②参考学習事例(高学年向け) ジャッキアップゲーム

被災直後の救助の際に、重いタンスなどを持ち上げることができ  
る有効な道具「ジャッキ」の使い方を学ぶ。

- ◎目安時間：15分/回
- ◎実施場所：屋内・屋外両方可
- ◎参加人数：1～3人/回
- ◎必要スタッフ数：3人～

### 実施ポイント

- 1 倒壊した建物内に閉じ込められた人や転倒した家具の下敷きになってしまった人を助け出すのに有効なジャッキの使い方を、手順を追って学ぶ。
- 2 消防署や防災倉庫に入っている油圧式ジャッキよりも、自家用車に搭載されていて入手しやすい車用のジャッキの使い方を優先的に教える。



### 必要資機材(目安)

資機材名	数	備考
<input type="checkbox"/> 油圧式ジャッキ <b>A</b>	1機	消防署、防災倉庫などに保管されている。
<input type="checkbox"/> パンタグラフジャッキ <b>B</b>	1機	タイヤ交換用のものなので、車に必ず搭載されている。
<input type="checkbox"/> なまず人形 <b>C</b>	1体	重り用人形 プラス・アーツからレンタル可
<input type="checkbox"/> カエル人形 <b>D</b>	1体	プラス・アーツよりレンタル可
<input type="checkbox"/> ペットボトル	適量	※参考 2L：10本、1L：4本、500ml：2本程度それぞれ 必要(1つの人形に対して)
<input type="checkbox"/> 折りたたみ式長机	1脚	
<input type="checkbox"/> 角材	9本程度	10cm角、長さ40cm程度が適当
<input type="checkbox"/> レジャーシート(ブルーシート)	1枚	6畳程度の大きさのもの
<input type="checkbox"/> 震災に関する資料・写真など	1枚	用意できる場合のみ
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		



### 前日までの準備

- ジャッキの使い方は、2種類共(油圧式ジャッキ、パンタグラフジャッキ)事前にマスターしておく。

### 当日の準備

- ペットボトルに水を入れ、なまず人形に詰める。20~30kgになるよう調整する。
- カエル人形にも水の入ったペットボトルを詰める。なまず人形よりは軽めにしておく。
- カエル人形の上に長机を置き、その上になまず人形を配置し、その他の資器材はすぐ横に置いておく。
- ジャッキを置く床面を平らにしておく。



### 震災時の状況説明

災害時に、重たいものの下敷きになった人を救出する道具として、身の回りであってすぐに持ってこられる車用のパンタグラフジャッキが、とても役に立つことを伝える。

用意ができれば、地震でタンスが倒れている写真などを見せてもよいでしょう。



### ジャッキの説明

まず、ジャッキがどんな道具なのかを説明する。

- ・車のトランクに必ず搭載されていること
- ・地域の防災倉庫などの中にも入っていること
- ・車のような重たいもの(1トンもしくは2トン)を持ち上げることができることなど。



### ジャッキの使い方の説明

震災の時には、救出活動の際に役立つことも教え、ジャッキの正しい使い方を説明する。油圧式ジャッキもパンタグラフジャッキもそれぞれ使い方のコツがあるので、実演をしながらポイントを説明する。



### ジャッキでカエル人形を助ける

ジャッキのセッティングから参加者に体験させる。机がある程度持ち上がったら、角材を隙間に差し込み危険を回避する方法も教える。ジャッキが上がりきったら角材を差し込んだままで一旦ジャッキを抜き、角材などで底上げをして、再びジャッキで持ち上げることも教える。カエルを救出できれば成功。

救出する際は、座を揺らして引っ張り出すことも伝えましょう!



### 注意事項説明

参加者が低年齢の子どもの場合は、一人による無理な救出を避け、助けを求めることを教える。また、家の車の中のジャッキを確認しておくように最後に伝える。このプログラム中には、手を挟むなどの危険が伴うので、スタッフは十分に注意して道具を扱う。



# 2

## 防災学習事例②参考学習事例(高学年向け) 毛布で担架タイムトライアル

物干し竿や竹の棒、毛布などの身の回りにあるもので、応急的に担架をつくり、ケガ人を搬送する方法を体験を通して学ぶ。

- ◎目安時間：10分/回
- ◎実施場所：屋内・屋外両方可
- ◎参加人数：4人/回
- ◎必要スタッフ数：2人～

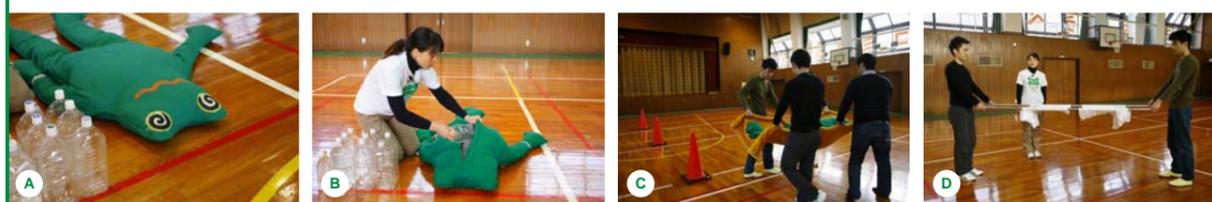
### 実施ポイント

- 1 専用の担架が不足する被災地で役立つ、身の回りの物を使った簡単で機能的な担架の作り方を学ぶ。
- 2 スピードを競うあまり忘れがちな、搬送するけが人を安静に運ぶことの重要性や、足の向きの方に運ぶルールなど細かい注意事項をきちんと説明する。



### 必要資機材(目安)

資機材名	数	備考
<input type="checkbox"/> カエル人形 <b>A</b>	1体	プラス・アーツからレンタル可
<input type="checkbox"/> ペットボトル(カエル人形の重り用) <b>B</b>	適量	※参考 2L：10本、1L：4本、500ml：2本程度それぞれ
<input type="checkbox"/> 毛布 <b>C</b>	1枚	必要
<input type="checkbox"/> カラーコーン	1個	折り返し地点に置く
<input type="checkbox"/> ストップウォッチ	1個	電池もセットで用意
<input type="checkbox"/> メジャー	1個	走行距離計測用
<input type="checkbox"/> ブルーシート	1枚	屋外の場合のみ
<input type="checkbox"/> ランキングボード	1枚	形式自由
<input type="checkbox"/> Tシャツ <b>D</b>	2枚	他の担架のつくり方で使用(参考のために用意しておく)
<input type="checkbox"/> 物干し竿 <b>D</b>	2本	とよい)上記同様
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		

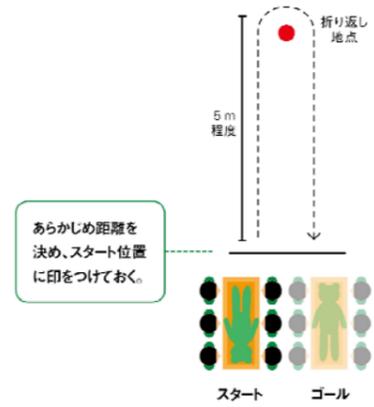


### 前日までの準備

- ストップウォッチが作動するかどうか確認する。
- 屋外で実施する場合、ある程度走っても大丈夫な場所かどうか確認する。

### 当日の準備

- ペットボトルに水を入れ、カエル人形の背中ファスナーを開け、詰める。  
重さは、各開催地でのスタッフや参加者の年齢層に合わせて、調整しても構わない。
- 走行距離を計測して、折り返し地点にコーンなどを立てる。  
(目安：スタート⇄折り返し5~7m)



### 震災時の状況説明

阪神・淡路大震災時には、負傷者を畳や雨戸、毛布などの身の回りのもので搬送したという事実を説明する。

左右のバランスにも注意しよう。



### 担架のつくり方の説明

まずみんなで毛布の端をそのまま持ちカエル人形を持ち上げる。持ちにくさを体感した後、次に毛布担架のつくり方を説明する。



### 担架のつくり方

- ①毛布の両側に3人ずつ並ぶ。(大人の場合は2人ずつ)
- ②毛布の両端をくるくるまるめる。
- ③手を肩幅に広げて順手で持つ。
- ④かけ声をかけながら担架を持ち上げ、持ちやすさを体感する。



### 搬送体験

運ばれている人が安心するように、足先が進行方向になるようにする。また、運ぶ際には声をかけてあげることが大切なことも伝える。

※誰かが傷病者役になり、みんなで持ち上げさせる方法もあるが、その場合は、充分安全確認を行ってから実施する。



### タイム計測

安全に運ぶことを前提にタイム計測を行い、順位表を付けていく。乱雑に運んだら、減点するなどして、迅速かつ正確に運ぶことの大切さを教える。

「1・2・1・2」と掛け声を出し、足並みを揃えて歩くと負傷者への振動が少なく搬送できるよ!



# 2

## 防災学習事例②参考学習事例(中学生向け) 応急手当ワークショップ

簡単なケガの手当の方法と、自分たちでできる応急処置の重要性を学ぶ。緊急時に身の回りのものでできる方法を習得する。

- ◎目安時間：10～15分/回
- ◎実施場所：屋内・屋外両方可
- ◎参加人数：2人一組で実施
- ◎必要スタッフ数：2人～

### 実施ポイント

- 1 様々な身の回りの物を使って臨機応変に応急手当ができることを実演を通して伝える。
- 2 実際にやってみて覚えるとともに他にどんなものか使えるかを想像して発表すると効果的である。



### 必要資機材(目安)

資機材名	数	備考
<input type="checkbox"/> 大判ハンカチ	2枚	1辺が50cm前後の大きさ
<input type="checkbox"/> タオル <b>A</b>	1枚	スポーツタオル程度の大きさ
<input type="checkbox"/> 折りたたみ傘 <b>B</b>	1本	
<input type="checkbox"/> スーパーの袋	数枚	
<input type="checkbox"/> ビニール袋	数枚	
<input type="checkbox"/> 雑誌、マンガ本	1冊	週刊誌などのまるめやすいもの
<input type="checkbox"/> 新聞紙	1日分	朝刊1日分程度
<input type="checkbox"/> サランラップ	1本	
<input type="checkbox"/> ガムテープ <b>C</b>	1個	
<input type="checkbox"/> 油性マジック	1本ずつ	赤マジックはケガの想定位置を描くために使う。
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		



### 前日までの準備

- なるべく、身の回りにある道具を用意する。
- より正確な知識を伝えるためには、自主防災組織や消防団の中の救急インストラクター資格者と連携するなど、指導を事前に受けると万全である。

### 当日の準備

- スタッフ同士で内容を確認し、各方法の練習を行う。(布で縛る時の強さなども確かめておくとよい)
- ケガの想定として、赤いマジックでスタッフが腕などにしるしをつけておくと、分かりやすい。(テープやシールなどでもよい)



### 応急処置の説明

応急処置の事例などを紹介し、救急車が来るまでの応急処置の重要性について説明する。

防災ゲームの紙芝居などを使って説明すると、ケガした状況などを伝えるのに分かりやすいよ!



### 骨折の応急手当

- ①折れた骨を支えるための副木になるものを用意する。
- ②折れた骨の両側の関節と副木を、布などで結び固定する。
- ③三角巾やビニール袋などを使って、固定した腕を首からつる。
- ④より安定させるために、つり下げている布を胸にしぼりつける。



### 止血帯法

- ①布などをたたんで、約5cm幅の止血帯をつくる。
- ②傷より心臓に近い部分に布を当て、上から止血帯を二重に巻く。
- ③すき間に入れた棒をまわして止血帯をしめ、棒を固定する。
- ④巻いた時刻を体などに書き、30分に一度は止血帯をゆるめる。



### 直接圧迫止血法

- ①手当をする人は、感染を防止するために、できるだけビニール手袋やビニール袋を使用し、手を覆う。
- ②清潔なガーゼやハンカチなどを傷口に当て、手で圧迫する。
- ③三角巾やハンカチを上から巻く。この時に、強く巻きすぎないと結び目が傷に当たらないように注意する。

人を助ける事も大事だけど、自分が感染しないように注意することも重要だということをしっかり伝えよう!



### 実践

2人1組になり、ケガ人と手当をする人を交代しながら、各応急手当の方法を実践してみる。身の回りのもので応急手当ができることを学ぶことで、常に大判ハンカチを持つなど、日頃から防災の意識を持つことが重要であることを伝える。

# 2

## 防災学習事例②参考学習事例(中学生向け) 家具転倒防止ワークショップ

家具と家具転倒防止グッズのミニチュアを使用して、家具転倒防止の重要性、各グッズの使用手法や効果を学習する。

- ◎目安時間：15分/回
- ◎実施場所：屋内・屋外両方可
- ◎参加人数：1人～6人/回
- ◎必要スタッフ数：2人～

### 実施ポイント

- 1 様々な方法で家具転倒防止策を教えることで課題となっている借家での対策の促進につなげることができる。
- 2 過去の震災のケガの原因等を教え、家具の転倒防止が命を守る上でとても重要なことを伝える。
- 3 子どもだけでなく同僚の保護者に対してでもできる限り知識を伝えるようにする。



### 必要資機材(目安)

資機材名	数	備考
<input type="checkbox"/> 家具転倒防止キット <b>A</b>	1式	プラス・アーツからレンタル可 (家具、本、カエル人形、寝具)
<input type="checkbox"/> 家具転倒防止グッズのミニチュア <b>B</b>	1式	プラス・アーツからレンタル可 (L字金具2、開き戸ストッパー1、引き出しストッパー4、 ストッパー式2、ボール式2、ベルト式4、連結金具4、 隙間金具2)
<input type="checkbox"/> 家具転倒防止グッズの実物 <b>C</b>	1式	ホームセンターなどで購入できる。
<input type="checkbox"/> レジャーシート(ブルーシート)	1枚	6畳程度の大きさのもの、屋内で実施する場合に必要
<input type="checkbox"/> 説明用の写真・イラスト	1セット	プラス・アーツからレンタル可
<input type="checkbox"/>		

**A** **B**

**B**

**C**

### 前日までの準備

- 各アイテムについて、不足や破損がないか事前に確認しておく。

### 当日の準備

- 家具転倒防止キットの家具、本、カエル人形、寝具をセットする。
- 家具転倒防止グッズ(ミニチュア)を参加者の前に並べる。
- 家具転倒防止グッズ(実物)は、スムーズに紹介できるよう実施場所付近に並べておく。
- スタッフ同士でワークショップの流れを確認し合い、練習をする。



### 震災時の状況説明

写真やイラストなどを使用して、震災時の家具転倒による被害(ケガや食器の破損など)について教える。

[MEMO]

- ・阪神淡路大震災のケガの原因の50%は、家具等の転倒落下。
- ・首都直下型の地震が来た場合、35%の人が家具の転倒落下により負傷するとも言われている。

実際の被災地の写真や、イラストなどを使って説明すると、分かりやすい!



### 家具転倒の様子説明

家具転倒防止グッズ(ミニチュア)をセットしない状態で、家具を揺らし転倒させ、布団で寝ているカエルがケガをしてしまう様子を説明する。



### 家具転倒から身を守る方法の説明

家具転倒から身を守る方法を、参加者に尋ねる。参加者の回答を聞いてから、その方法について詳しく解説する。

- 【家具等の転倒から身を守る方法】
- 寝室にはなるべく家具を置かない。
  - 転倒した時に避難の妨げになる場所には家具を置かない。
  - 重いものを下に、軽いものを上に収納する。
  - 地震に備えて家具転倒防止



### 家具転倒防止グッズの使い方の説明

家具転倒を防ぐための方法を参加者に尋ねて、家具転倒防止グッズ(ミニチュア)を使ってそれぞれどのように使うかを尋ねる。参加者の回答を聞いてから、それぞれのグッズの正しい使い方を詳しく解説する。



### まとめ

家庭の家具転倒防止について確認してもらい、もし、出来ていない場合は、対策を促す。また、家具転倒防止グッズの実物を紹介すれば、参加者の理解度は一層深まる。



※1 家具類の転倒・落下防止対策に関する調査研究委員会報告/東京消防庁 ※2 首都直下地震による東京の被害想定/平成18年3月東京都防災会議

# 3

## 防災訓練事例① 避難訓練(火災)

### ねらい

- ①授業時の火災発生における避難の方法を会得する。
- ②子どもたちを安全かつ速やかに避難誘導する。
- ③避難の際の約束を確認し徹底する。

- ◎日程：平成23年4月20日(水)
- ◎時間：10時50分～12時20分(90分)
- ◎対象：1～9年生
- ◎協力：箕面市消防本部予防課(7人)

### 実施内容

#### ①全体訓練

- (1)火災通報訓練 ※出火想定箇所は給食調理室(雨天時は理科室)とする。
- (2)避難訓練 ※避難場所は運動場(雨天時はスクールアベニュー)とする。
- (3)消火訓練 ※出火想定箇所において消火訓練(模擬)を行う。
- (4)点呼・消防隊への状況報告

#### ②個別訓練

- (1)水消火器を使用した消火訓練 ※水消火器5本(1本で約6人、1人約30秒)を使用する。
- (2)実消火器を使用した消火訓練 ※実消火器4本を使用する。
- (3)煙ハウスを使用した煙体験

#### ③訓練講評



避難誘導訓練の様子



水消火器訓練の様子



水消火器訓練の様子



実消火器訓練の様子



煙体験の様子



訓練講評の様子

## タイムスケジュール

10時50分 授業開始

11時05分 火災発生放送/避難訓練

11時20分 水消火器訓練 ※各学年から3人(8年生2人)、教職員4人が参加する。

11時35分 実消火器訓練 ※8~9年生3人、教職員1人が参加する。

11時40分 煙体験

※5年生6人と6~9年生19人が1年生とペア参加。4年生5人と5年生1人が2年生とペア参加。3年生と4年生2人は単独参加。

12時10分 訓練講評

12時20分 訓練終了

## 留意事項

- 警報と同時に学習活動を中止して、放送を確実に聞く。
- 騒がずに落ち着いて先生の指示を聞く。
- 開いている窓を閉める。(クレセントや鍵はかけない)
- 火災場所がどこであっても絶対にエレベーターは使わない。
- 1~4年生は教室のバルコニーから直接外に避難して運動場に向かう。
- 5~9年生は南西側の階段(黄色階段)を使って避難する。
- 煙を吸い込まないように姿勢を低くして、ハンカチなどで口や鼻を覆う。
- 煙が充満すると周りが見えなくなるので、出来るだけ壁伝いに移動する。
- 整列して移動する。(順番は守らなくてもよい)
- 移動中の注意として、“前の人を押さない”“建物内で走らない”“しゃべらない”“戻らない”を守る。
- 建物の外に出たら、早足で運動場に向かう。

## 事後の振り返りから

- 授業者の持ち出し物品(出席簿など)の周知が必要である。
- 寒かった。東日本大震災を見ていても、着のみ着のままより、暖をとる衣服があった方がよい。余裕があれば放送で一枚羽織る指示をし、上着を着て避難する方がよいと思った。
- みんなが煙体験をできたのはよかった。上の学年の人とのペア方式も心強くてよかった。
- 煙体験は初めての体験だったが今後もやった方がよい。子どもたちも体験できることがよかった。ただし、人数が増えてくると難しいかも。

# 3

## 防災訓練事例② 防災訓練（地震に伴う引き渡し）

### ねらい

防災訓練の一環として、大地震の発生時や警戒宣言が発令された場合の集合及び下校の仕方の理解を図り、適切に行動できるようにする。

- ◎日程：平成23年10月27日(木)
- ◎時間：14時50分～15時50分(60分)
- ◎対象：1～9年生、保護者

### 実施内容

#### 引き渡し訓練

- (1) 引き渡し訓練の説明
- (2) 列の移動 ※引き取りしやすいように列の間隔を調整する。
- (3) 保護者への引き渡し
- (4) 欠席者及び引き渡し完了の報告
  - ※引き渡し後、1～4年生は保護者またはその代理人と一緒に下校する。5～9年生は部活動に移る。
- (5) 保護者が留守で引き渡しできなかった児童生徒は留め置き迎えを待つ
  - ※やむなく普段通りの下校を希望される家庭の児童生徒は、班に分かれて自宅まで送り届ける。



引き渡し訓練の説明の様子



保護者への引き渡しの様子



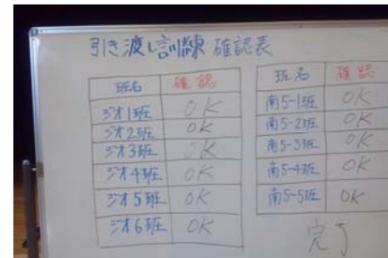
保護者に名前等確認している様子



保護者に名前等確認している様子



引き渡しを確認している様子



引き渡し確認表

## タイムスケジュール（オープンスクールに合わせて実施）

- 14時50分 担任が引率し子どもたちは体育館へ移動／集合したクラスは人員点呼・報告  
※点呼・報告は、各担任が担当する。
- 15時00分 （子どもたちはレクリエーション／保護者は懇談会）  
※レクリエーションは管理職と担任以外の教職員が担当する。  
※懇談会は、各担任が担当する。
- 15時30分 保護者が体育館へ移動
- 15時35分 引き渡し訓練（訓練の説明／列の移動／完了の報告）
- 15時50分 訓練終了

## 留意事項

- きょうだい関係の把握のしやすさから地区（集団登校班）ごとに集合する。
- 保護者であることが明らかな場合を除き、名乗り出られた人に安易に引き渡すのではなく、子どもとの関係や相手の連絡先を確認する。
- 誰が誰に引き渡したのか（保護者もしくは代理人等）が分かるようする。

## 事後の振り返りから

- 避難時、子どもたちの混乱をできるだけ少なくするよう、集合時の並び方を日頃から取り入れ、子どもたちが号令ひとつで自ら行動して並べるようにしておくことが大切である。
- 前回の火災の避難訓練時の煙の体験、消火器の使用など、とても大切なことだと思ったが、今回も、今後人数が増えてもスムーズに引き渡しを行うために必要だと思った。
- 非常時、子どもたちが大人の指示に安心して従えるように、大人も（私たちも）子どもたちの顔を覚え、挨拶や声かけをすることで、子どもたちにも顔を覚えてもらい、信頼関係を作っておくことが大切など、訓練に参加して感じた。
- 今回の訓練に参加させてもらい、とても貴重な経験になった。このような訓練は初めてで、大災害があった時など、子どもたちを迅速かつ安全に保護者の元へ帰れるようにすることの大切さを感じた。
- 放課後何か起きた時、遊び場開放事業に参加する児童と学童保育に通う児童を安全に避難させられるよう、学校のマニュアルに沿った訓練を学童保育の場などでも繰り返し行っていきたい。

# 3

## 防災訓練事例③ 防災訓練（講演会 & 備蓄倉庫見学 / 炊き出し）

### ねらい

- ①学校と保護者（地域）の連携を深め、地域防災を一緒に考える。
- ②災害時における避難所開設が円滑に進むように、備蓄倉庫を見学し予備知識を持つ機会とする。

- ◎日程：平成 23 年 11 月 12 日（土）
- ◎時間：10 時 00 分～12 時 30 分（150 分）
- ◎対象：1～9 年生、保護者
- ◎協力：地盤工学会  
ボランティア（大学生・保護者）

### 実施内容

#### ①防災講座「大地のつくり～彩都の大地～」

[講師] 菅野耕三氏（大阪教育大学名誉教授）

[内容]

- ・自然災害に対する“減災”という考え方について
- ・地盤による災害事例（地盤沈下や液状化現象等）について
- ・彩都の丘学園地区の地盤や北摂地方の断層群について
- ・造成地内の切土場と盛土場、またそれらの境界地における地震や豪雨に対するリスクの差異について
- ・災害の被害を最小限に抑えるための自助・共助の重要性について
- ・菅野氏のコレクションである鉱石や化石の展示会

#### ②備蓄倉庫見学 ※事前に備蓄倉庫に準備したい物を考えてもらってから見学する。

#### ③炊き出し ※備蓄倉庫にある備品を使って豚汁を調理して振る舞う。



防災講座の様子



防災講座の様子



鉱石や化石の展示



備蓄倉庫見学の様子



炊き出しの様子



炊き出しの様子

## タイムスケジュール

- 10時00分 防災講座「大地のつくり～彩都の大地～」
- 11時00分 備蓄倉庫見学
- 11時30分 炊き出し（備蓄倉庫の釜で約200食分が可能）
- 12時00分 昼食
- 12時20分 片付け
- 12時30分 訓練終了

## 防災講座に対する感想

- 災害に対する心構えが変わった。とても分かりやすい話で楽しい講演だった。
- 水の話、地球の不思議について、とても興味深く拝聴した。分かりやすく良かった。マンションを購入した際、ある程度地盤の話は聞いたけれど、切土盤・盛土盤という言葉は今回初めて聞いたので、後で地図をじっくり見てみたい。
- 自然と災害は隣り合わせであるということや防災は難しいが減災は対策を重ねることなどで可能であることなどが学べた。地球は奇跡の産物であるお話や水の不思議についてのお話を聞いてすごく関心が広がった。
- 大変興味深いお話だった。彩都の地盤については、もう少し詳しくお伺いできれば良かったと思う。幅広い視点から防災・減災への意識を持つことができた。
- 彩都地盤の特色が聞けて良かった。水は生きていくのに必要ですが、命を脅かすものだとも再認識した。
- 岩板、岩石の話、地盤の話を知りやすく、身近な話題も重ね合わせてお話いただき良かった。また、危機感も持つことができ地震に対する備え、防災が必要であることも理解できた。
- 周辺の地層について調べてみようと思う。
- 断層が近くを通っていると聞いてびっくりした。自宅の地盤も盛り土なのだろうか？
- 学術知識を基にした迫力の講演に感動した。減災の取り組みの必要性を理解できた。
- とても分かりやすかった。近所の助け合いが重要という点が心に残った。

備蓄倉庫にあれば良いと思ったもの(見学前のアンケートから)

- 水、食料、離乳食、粉ミルク
- 簡易トイレ、仮設トイレ、紙おむつ、女性用ナプキン
- 手袋、毛布、防寒着、電灯、携帯の充電器(ねじ式)、コンロ、ストーブ、避難所用の間仕切り
- 薬、消毒液、ウェットティッシュ

彩都の丘学園 備蓄倉庫資機材一覧表

種類	品名	数量	場所	種類	品名	数量	場所
資機材 消火用	消火器	10	B	救助用資機材	ジャッキ	2	B
	ポリバケツ	10	B		防塵メガネ	2	B
	布バケツ	10	B		防塵マスク	50	B
資機材 水防用	長靴	30	A		ハンマー	10	D
	雨合羽	50	B		テコパール	25	D
	降雨シート	50	D		シャベル	10	D
	一輪車	3	D		ツルハシ	5	D
	非常用水土のう	120	D		災害救助道具	1	D
	コードリール	1	A		リヤカー	2	D
消火用資機材	投光器	2	A		発電機	1	E
	斧	5	A		生活用品セット	200	A
	のこぎり	25	A		机	2	B
	担架	2	A		椅子	2	B
	ポルトクリッパー	2	A		アルファ化米	1000	C
	手回しラジオライト	10	B	サバイバルフーズ	50	C	
	キャップライト	10	B	おかゆ	50	C	
	ハンドマイク	2	B	自転車	1	D	
	トランシーバー	2	B	毛布	150	E	
	乾電池(単1)			飲料水用ポリ袋	800	E	
	乾電池(単2)	8	B	飲料水(2ℓペットボトル)	100	E	
	乾電池(単3)	24	B	ポリタンク	10	E	
	電池チェッカー	1	B	携行缶	2	E	
	救助ロープ	1	B	防災用かまどセット	1	E	
	トラロープ	2	B	紙おむつ(乳児用)	1144	F	
	ロープ	5	B	紙おむつ(大人用)	204	F	
	縄ばしご	1	B	生理用品	900	F	
	可搬式ウインチ	2	B	ポータブルトイレ	30	F	
	ヘルメット	40	B	避難所用敷物	4	F	
	軍手	50	B	仮設トイレ(身障者対応型)	3	F	
	革手袋	10	B	革手袋	100	F	

# 3

## 防災訓練事例④ 避難訓練(地震)

### ねらい

- ①授業時の地震発生における避難の方法を会得する。
- ②児童生徒を安全かつ速やかに避難誘導する。
- ③避難の際の約束を確認し徹底する。

- ◎日程：平成24年1月16日(月)
- ◎時間：13時50分～14時10分(20分)
- ◎対象：1～9年生

### 実施内容

#### 避難訓練

- (1)地震発生放送 ※非常ベルで合図する。
- (2)避難誘導放送 ※揺れの治まりを確認後に行う。  
・教室では、机の下に避難する。(机の脚を持ち、頭を下げて身体を丸めます)。体育館では、体育館の中央に集まって座る)
- (3)避難場所へ移動 ※学年毎に整列する。
- (4)人員点呼・報告  
・在籍数、欠席者数、点呼確認者数を校長へ報告する。出席簿と非常時持ち出しカバンを携帯する。

#### タイムスケジュール

- 13時50分 授業開始
- 13時52分 地震発生/避難訓練
- 14時10分 訓練終了

#### 留意事項

- 警報と同時に学習活動を中止して、放送を確実に聞く。
- 騒がずに落ち着いて先生の指示を聞く。
- 火災場所がどこであっても絶対にエレベーターは使わない。
- 1～4年生は教室のバルコニーから直接外に避難して運動場に向かう。
- 5、6、8、9年生は南西側の階段(黄色階段)を使って避難する。
- 7年生は南東側の階段(青色階段)を使って避難する。
- 整列して移動する。(順番は守らなくてもよい)
- 移動中の注意として、“前の人を押さない”“建物内で走らない”“しゃべらない”“戻らない”を守る。
- 建物の外に出たら、早足で運動場に向かう。

# 4

## 防災教育年間カリキュラム

		4月	5月	6月	7月	9月
特別活動		防災訓練事前事後指導			夏休みの生活	防災訓練事前事後指導
防災教育関連事業		年間計画作成 校区・通学路の安全確認 学級連絡網作成 地区集会 集団下校・安全指導 防災訓練(火災)	安全点検	防災授業参観 教職員救命救急法研修 安全点検	安全点検	防災訓練(不審者) 安全点検
防災教育・教科との関連	1年		道：がっこうたんけん 生：けいびいんさんのしごと	体：水遊び 道：あつあぶない 生：通学路にあるもの	体：水遊び	
	2年		生：まちたんけん	体：水遊び 生：まちたんけん	体：水遊び	
	3年	社：わたしたちのまちのようす 体：集団行動		体：浮く、泳ぐ運動 社：わたしたちの市のようす	体：浮く、泳ぐ運動	道：公園ボランティア
	4年	体：集団行動		体：浮く、泳ぐ運動 社：住みよいくらしをつくる	体：浮く、泳ぐ運動	社：くらしを守る
	5年	理：天気の変化 家：見つめよう！家庭生活 社：日本ってどんな国 体：集団行動	社：さまざまな土地のくらし	体：水泳 国：百年後のふるさとを守る	体：水泳 体：けがの防止	理：台風と天気の変化
	6年	理：物の燃え方(爆発) 体：集団行動		体：水泳 道：土石流の中で救われた命	体：水泳	理：大地のつくりと変化
	7年	体：集団行動 技：身の回りの製品を調べよう		体：水泳 国：壁に残された伝言	体：水泳 美：共同制作の魅力	理：浮力(土石流)
	8年	体：集団行動		体：水泳	体：水泳 美：共同制作の魅力	保：自然災害に備えて 保：応急手当の意義と手順
	9年	体：集団行動 外：地球温暖化と風力発電		社：わたしたちと社会生活 体：水泳	体：水泳 美：共同制作の魅力	技：インターネットで 情報を収集しよう

10月	11月	12月	1月	2月	3月
防災訓練事前事後指導		冬休みの生活	防災訓練事前事後指導 防災検定プログラム準備研修		春休みの生活
安全点検 防災訓練(引き渡し)	安全点検 地域防災  (震災復興支援チャリティコンサート)	安全点検	防災訓練(地震) 防災体験プログラム 安全点検	安全点検	安全点検
		生：みんないっしょに	生：みんないっしょに		
	生：まちたんけん	生：まちのすてき			
社：暮らしを守る		道：できることから			理：自然の中の水
理：流れる水の働き 体：地域の保健活動	国：天気を予想する	国：ニュース番組作りの現場から	理：冬の天気 社：わたしたちの暮らしを支える情報		社：国土の環境を守る
体：地域の保健活動			社：政治のはたらき	社：暮らしと憲法 理：生命と地球	家：地域とのつながりを広げよう 社：日本とつながりの深い国
理：気体(有毒ガス) 保：喫煙・飲酒・薬物乱用、心の健康	外：点字の本、読み方	音：音楽と暮らし	社：自然災害とその対策 理：火山 美：伝えよう大切なこと	理：地震 理：活断層	国：この小さな地球の上で 数：人にやさしい階段
保：喫煙・飲酒・薬物乱用、心の健康	家：安全に住むにはどうしたらよいだらう 外：ユニバーサルデザイン	音：音楽と暮らし	美：伝えよう大切なこと	理：低気圧と台風 理：自然環境の保全	社：関東大震災について 数：点字を読んでみよう 理：四季の天気
保：喫煙・飲酒・薬物乱用、心の健康 外：プータンの西岡京治	家：家庭と地域とのかかわりを考えよう	音：音楽と暮らし	社：環境問題と防災 国：凧になったお母さん 美：伝えよう大切なこと	理：自然の恵みと災害	数：地球温暖化問題を関数で考えよう

# 5

## 防災・安全教育全体計画



- \* 災害の自然的・社会的要因を理解し、今後の防災のあり方について考える。
- \* 災害から生命を守るために必要な能力や資質の向上を図る。
- \* 人間としてのあり方や生き方を考え、生命を尊重する心を育成するとともに、他者に対する思いやりや助け合いの心、ボランティア精神を養う。

推進の視点	
新たな防災教育の推進	指導力・実践力の向上
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育活動全体を通じた防災教育の推進</li> <li>・ 防災教育教材「チャレンジ防災48」の活用</li> <li>・ 心のケアの充実</li> <li>・ 効果的な防災訓練の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員の防災リテラシーや応急処置能力の向上</li> <li>・ 心のケア等をテーマとした校内研修会の充実</li> <li>・ 新たな防災教育の指導方法・指導内容の工夫、改善</li> </ul>

発達段階に応じた到達目標		
前期	1-2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通ルール等のきまりを守り、安全に行動することができる。</li> <li>・ 助け合い、協力することの大切さが理解できる。</li> <li>・ 「子ども110番の家」の場所など、防災・防犯関連施設について理解できる。</li> </ul>
	3-4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害に関する知識を習得し、災害から身を守りながら安全に行動できる。</li> <li>・ 自分のことを振り返り、見直すことができる。</li> <li>・ 校区の防災施設等を知り、安全な暮らしを守る仕組みについて考えることができる。</li> </ul>
中期	5-7年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭や社会の一員として共に力を合わせて集団生活の向上に努力することができる。</li> <li>・ 自然災害について理解し、地域の実情から災害の備えについて考えることができる。</li> <li>・ かけがえのない生命を与えられていることに喜びと感謝の気持ちを持つことができる。</li> </ul>
後期	8-9年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やさしさや思いやりの心を持ちながら生きていくことの大切さが理解できる。</li> <li>・ 進んで公共の福祉のために尽くそうと考えることができる。</li> <li>・ 災害時における学校が果たす役割について理解し、学校と地域の人々との繋がりについて考えることができる。</li> </ul>
全般		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害発生時に周囲の状況を的確に判断し、安全に避難する能力を身につける。</li> </ul>

教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学的思考力、判断力の育成</li> <li>・ 災害のメカニズム、地域特性、地域での支え合い、防災体制等の知識理解</li> <li>・ 防災意識の高揚</li> <li>・ 応急処置法の体得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生命の尊重、差別意識の完全解消、異文化理解・共生等人権を尊重する精神の育成</li> <li>・ ボランティア精神及びやさしさや思いやりの心の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的な備え、災害時の安全確保、的確な判断や行動等、実践的な能力の育成</li> <li>・ 互いに協力し合い、自ら困難を克服する態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア精神、及び実践的な態度の育成</li> <li>・ 災害の歴史を学び、今後の防災体制を考える態度の育成</li> <li>・ 防災意識の高揚</li> </ul>

# 6

## 参考資料①

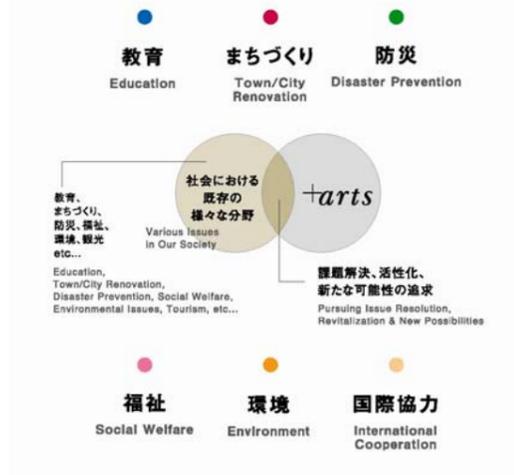
### 特定非営利活動法人プラス・アーツ

社会の既存の分野に対して“アート”そのものを持ち込むのではなく、アートの発想やアーティストの持つ既存概念に捉われない創造力を導入し、それらの分野がそれぞれ抱えている様々な課題や問題を解消し、再活性化させることを活動目標に掲げている。



NPO法人プラス・アーツ

所在地：〒550-0005 大阪市西区西本町 1-5-20  
 サミー本町ビル 6F  
 電話：06-4400-6108  
 FAX：06-6110-8631  
 URL：http://www.plus-arts.net/



### 「イザ！カエルキャラバン！」について

家族連れで賑わう防災のお祭り

「イザ！カエルキャラバン！」は、会場が楽しい雰囲気に含まれるおもちゃの物々交換プログラム「かえっこバザール」のシステムをベースに、そのなかで展開される「体験コーナー」をゲーム感覚あふれる「消火」、「救出」、「救助」などの防災訓練にすることで、参加者たちは楽しみながら防災の“知恵”や“技”を学べるようになっている。



### 「イザ！カエルキャラバン！」のシステムの紹介



1. おもちゃをもってこよう  
 いらなくなったおもちゃを「かえっこバンク」にもってくと「カエルポイント」に替えることができる。



2. すきなおもちゃをゲット  
 集まったおもちゃは会場にならべられ、カエルポイントでお買い物することができる。



3. カエルポイントをためよう  
 おもちゃをもってきていない子どもも「防災プログラム」を体験することでカエルポイントがもらえる。



4. オークションに参加しよう  
 人気の高いおもちゃは「オークション」にかけられ、集めたポイントで手に入れることができる。

# 6

## 参考資料②

### 箕面市行政機関との連携

#### 箕面市消防本部・箕面市消防署

- 防火・防災に関する主な事業
- 予防活動事業／消防活動事業 等
- 【防火・防災授業のテーマ】応急手当の実習、救急蘇生法／煙ハウス体験／いざという時のロープ結び 等
- TEL : 072-724-9995 / FAX : 072-724-3999

#### 箕面市 総務部 市民安全政策課

- 主な事業
- ・市防災体制強化事業
- ・地域防災力向上事業
- ・防災資機材整備・更新事業
- TEL : 072-724-6750 / FAX : 072-724-6376

### 阪神・淡路大震災に関する資料関連

#### 神戸市行財政局 行政監察部 庶務課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 神戸市役所 1号館 13階 / TEL : 078-322-5062 / FAX : 078-322-6015

### 防災について体験・学習できる関西の施設

#### 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

- 映像やジオラマ模型によって阪神・淡路大震災を追体験できるほか、震災と復興の記憶を残す資料が豊富に展示されている。語り部から震災時の体験談を聞くこともできる。
- ・所在地：兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2
  - ・TEL : 078-262-5050



#### 大阪市立阿倍野防災センター

- 地震の揺れの体験などができる「防災学習ゾーン」と、地震で崩れおちた街を避難・体験することで、地震や火災などの際に必要な行動を学ぶ「地震災害体験ゾーン」から成る。
- ・所在地：大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋 3-13-23
  - ・TEL : 06-6643-1031



#### 京都市市民防災センター

- 映像、強風、地震、避難、消火、応急手当、模擬建物内で火災時の一連の行動手順を学ぶ総合訓練などの体験科目を組み合わせてプログラムを構成することができる。
- ・所在地：京都府京都市南区西九条菅田町 7
  - ・TEL : 075-662-1849





## 防災教育プログラム

平成 24 年(2012 年)3 月発行

発行:彩都の丘学園(箕面市立彩都の丘小・中学校)

協力: NPO 法人プラス・アーツ

## 問合せ先

彩都の丘学園(箕面市立彩都の丘小・中学校)

〒562-0029

大阪府箕面市彩都粟生北 2 丁目 1 番 5 号

TEL : 072-726-9901 / 072-726-9903 (事務室)

FAX : 072-726-9900

E-MAIL : [saitonooka@maple.city.minoh.lg.jp](mailto:saitonooka@maple.city.minoh.lg.jp)

HP : <http://www.city.minoh.lg.jp/saitonooka/>

本誌掲載の写真、イラスト、記事の無断転載を禁じます。

